

(5) 研究の構想

学校教育目標
意欲的に学び、自立に向かう子どもの育成

目指す子どもの姿

気持ちいいあいさつ

いつでも、どこでも、だれにでも
気持ちのいい挨拶ができる子ども

よく聴き、よく話す

よく考えながら相手の話を聴く子ども
よく考えながら自分の考えを話す子ども

きちんとくつならべ

後片付け(くつなをらべること)が
できる子ども

育成を目指す「よく聴き、よく話す」資質・能力

知識及び技能
豊かな語彙
話し方・聞き方

思考力、判断力、表現力等
考えを整理してまとめる力
考えながら聴く力
分かるように語る力

学びに向かう力、人間性等
受け止め、分かり合う心
やってみようとする意欲

研究主題

よく聴き、よく話す子どもの育成を目指す授業の創造
～「熊本の学び」における授業づくりのポイントの実践を通して～

「よく聴く」とは、相手を尊重し、心を傾けながら、自分の考えと比べ、主体的に聴いている姿

「よく話す」とは、相手の考えや思いを受けて、自分の考えや思いを分かりやすく伝えようとしている姿

設定の理由

【今日的な課題・学習指導要領】

未来の創り手となるために必要な力を「生きる力」と改めて捉え直している。その資質・能力の育成のために「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善が重要であるとしている。

【県教育委員会の方針「熊本の学び」】

「熊本の学び推進プラン」の方針の一つに、「子どもが問いを発し、課題に主体的立ち向かい、学びを深める授業改善の推進」とある。さらに、授業づくりのポイントとして、「単元デザインの工夫」「導入の工夫」「展開の工夫」「終末の工夫」が示され、授業改善を推進することが求められている。

【児童の実態】

(学力面)

○NRT 50. 2(国49.2、算50.5)
偏差値分布は平均。学年差がある。
○県学力・学習状況調査
国...県平均を上回る
算...県平均を下回る

(生活面)

・概ね落ち着いた生活ができている
・自分の思いを伝えることが苦手

研究の視点

①単元デザインの工夫

・子どもの学習意欲が連続し、生活とつなげようとする姿が生まれる単元を通した学習課題と学習過程

②学習意欲を高める導入の工夫

・子どもが疑問を持ったり、予想したりすることに向かう言葉かけや教材・教具の提示

③理解が深まる対話的な学びの工夫

・子どもの考えが高まっていく対話(発問・言葉かけ)
・対話の必要性がある課題設定

④学びを確かにする終末の工夫

・理解と達成感につながる「まとめ」
・成長の自覚や次への意欲をもつ「振り返り」

すべての視点におけるICTの効果的な活用

研究の土台

【学習の基盤となる言語能力・情報活用能力の育成】

説明や資料等から新たな知識を得たり、事象を観察して必要な情報を取り出したり、考えをまとめたり、他者の思いを受け止めながら自分の思いを伝えたり、学級で目的を共有して協働したりすることができるのは、言葉(情報)の役割が大きく、言語能力及び情報活用能力の育成・向上を図ることが「よく聴き、よく話す」ための基盤となる。

【人権教育を根拠にした教育活動の展開】

人権尊重の精神に立った学校づくり・安心と信頼にあふれた高め合う学級づくりを基盤として、児童が安心・安全に過ごせる中で、生涯にわたって必要な基礎的・基本的な学力、人間関係形成能力、健康な心身が育成される。